

**日本独文学会
秋季研究発表会**

2011年10月15日(土)・10月16日(日)

第1日 午前9時50分より

第2日 午前10時00分より

会場 金沢大学
(角間キャンパス 自然科学本館)

〒920-1192 金沢市角間町

連絡先：金沢大学人間社会学域(志村研究室)

Tel. 076-264-5345 / Fax: 076-264-5362 (学会前々日まで)

Tel. 080-4254-4633 (学会前日および当日)

E-Mail: tagung2011kanazawa@jgg.jp

参加費：1500円(学生会員, 常勤職のない会員は1000円)

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル501

Tel/Fax: 03-5950-1147

E-Mail(メールフォーム): <http://www.jgg.jp/mailform/buero>

第1日 10月15日(土)

開会の挨拶(9:50-9:55) A会場(大講義室A)

北陸支部長 志村 恵
会 長 室井 禎之

シンポジウムI(10:00~13:00) A会場(大講義室A)

ハプスブルク神話とその規範をめぐって

Zum habsburgischen Mythos und seinem Kanon

司会：田中 まり コメントーター：松村 國隆

1. アーダルベルト・シュティフターと「ハプスブルク神話」
— 喪失への不安 磯崎 康太郎
2. メタ文学としての19世紀オーストリア文学史記述
— ヘルミュニア・ツア・ミュレンの試み 佐藤 文彦
3. リングシュトラッセにおける歴史主義
— ヘルマン・パールによる言説をめぐって 高橋 麻帆
4. ヘルマン・プロッホのオーストリア文化批判 早川 文人
5. 「神話」との対峙
— インゲボルク・バッハマンとペーター・ハントケ 元吉 瑞枝

シンポジウムII(10:00~13:00) B会場(AV講義室)

「入門文法」 よく説明・理解できていないこと

テキスト理解を助ける中・上級文法の試み

Kardinalgrammatik – gravierende Ratlosigkeit. Versuch einer Abhilfe zum besseren Textverständnis als Mittel- und Oberstufengrammatik

司会：井出 万秀

1. 再帰代名詞の再帰・相互用法の解釈について 宮下 博幸
2. ドイツ語テキスト読解における人称代名詞の日本語への置き換え
「ドイツ語は文法，日本語は文脈」？ 山本 恵

3. 第二言語獲得における関係文分析 — 先行詞の冠詞類と関係文
マヌエル・クラウス
4. 指示詞の機能について dieser と der を例に
三瓶 裕文
5. 辞書にない語をいかにして理解するか
「テキスト語」としての名詞合成語
磯部 美穂

口頭発表：語学 1 (10:00 ~ 12:35) D 会場 (101 講義室)

司会：保阪 靖人，河崎 靖

1. ポーランド語におけるドイツ語由来の語彙
渡辺 克義
2. 西ゲルマン語の verba pura における語幹末の w の起源について
下寄 正利
3. メタファー・メトニミーから見る意味の変化
— 形容詞の意味変化を例証として —
薦田 奈美
4. 言語懐疑の類型論の試み
室井 禎之

口頭発表：文化・社会 1 / 文学 1 (10:00 ~ 12:35) E 会場 (103 講義室)

司会：河田 章子，吉道 悦子

1. シラーの美的教養の理念と 19 世紀におけるその影響
石澤 将人
2. 夫婦愛と Einsamkeit
ティークの『生の余剰』における Einsamkeit のモチーフ
山縣 光晶
3. E. T. A. ホフマンの Märchen の独自性
『マイスター・フロー』を中心に
小崎 肇
4. Brille, Fenster, Lid und Augenbinde. Von der Sichtbarkeit
zur Unsichtbarkeit als Metapher der Wahrheit bei Kleist
Michael Mandelartz

口頭発表：ドイツ語教育 (10:00 ~ 12:35) F 会場 (104 講義室)

司会：Ruth Reichert，太田達也

1. CEFR 準拠教材の語彙リストをめぐる問題点と展望
小笠原 藤子
真道 杉

2. 文系学術テキストに見られる文体変異：
品詞頻度と語彙頻度に基づく分類と判別を通して 今道 晴彦
3. Welche Wirkung hat die Markierung von Akzenten in Lehrmaterialien
auf eine spontane Konversation bei japanischen Deutschlernenden der
Anfängerstufe? Markus Rude
4. シャドーイング訓練によるドイツ語発音の変化 林 良子
北村 美里

ブース発表 (11:30 ~ 13:00) G 会場 (102 講義室)

留学を推進する麗澤大学の実証研究 山川 和彦
草本 晶
ホルガー・シュッテレ

招待講演 (13:05 ~ 14:05) C 会場 (レクチャーホール)

Andreas Wistoff (Leiter des DAAD-Lektorenprogramms DAAD China)
Westliche Literatur vermittelt an östlichen Hochschulen
– Perspektiven, Barrieren, Strategien

コーヒーアワー (11:00 ~ 17:00) アカデミックプロムナード

シンポジウム III (14:15 ~ 17:35) A 会場 (大講義室 A)

「ドイツ語教育部会は誰 (のため) のものか? (承前)
研究と教育の統合をめざして」(ドイツ語教育部会企画)

Wozu und für wen gibt es eigentlich den JDV?

– Auf der Suche nach einem neuen Verhältnis zwischen Lehre und Forschung

司会：三瓶 慎一，保阪 良子

1. これまでの経緯と問題提起 相澤 啓一
2. ドイツ語教育研究の立場からの提言 境 一三

- | | |
|------------------------|-------|
| 3. ドイツ言語学研究的立場からの提言 | 清野 智昭 |
| 4. ドイツ文学研究的立場からの提言 | 宮谷 尚実 |
| 5. 機関誌『ドイツ語教育』の果たすべき役割 | 高橋 秀彰 |

シンポジウム IV (14:15 ~ 17:35) B 会場 (AV 講義室)

ロマン派の時代の危機意識とユートピア

Das Krisenbewusstsein und Utopievorstellungen im Zeitalter der Romantik

司会：桑原 聡

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1. レッシングのヘン・カイ・パン | 坂本 貴志 |
| 2. ヨーハン・ヴィルヘルム・リッターのダウジング研究 | 佐藤 朋之 |
| 3. ドイツ国民記念碑とアイヒェンドルフ | 松原 良輔 |
| 4. クレメンス・ブレンターノにおける「子どもの言語」の理念と詩論 | 岡本 和子 |
| 5. ロマン派の時代の人工庭園描写とパウル・シェアバルトの庭園描写 | 桑原 聡 |

シンポジウム V (14:15 ~ 17:35) C 会場 (レクチャーホール)

翻訳という問題から見えてくる言語，文化，人間

Sprache, Kultur und Menschen – Probleme bei der Übersetzung

司会：竹内 義晴

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 翻訳と語彙 — 「うらみ」がドイツ語に翻訳できない | 竹内 義晴 |
| 2. 翻訳と語り手の視点 — 三人称物語における情景描写を例に | 成田 節 |
| 3. 翻訳と聞き手・読み手の視点 共同注意を軸とした日独語対照研究 | 大園 正彦 |
| 4. 翻訳と省略 日本語はドイツ語に比べて「省略」が多いか | 宮下 博幸 |
| 5. 翻訳を読む楽しみ ドイツ語経由で日本文学を享受する | 宮内 伸子 |

口頭発表：文学2 / 文化・社会2 (14:15 ~ 17:05) D会場 (101 講義室)

司会：原 亮, Johannes Balve

1. 《影のない女》 文学と音楽のはざ間で 野口 方子
2. Figuren der Umwertung bei Friedrich Nietzsche und Jean Genet Leopold Federmair
3. ボードマーとフュスリ — スイスの疾風怒濤 今村 武
4. ベンヤミンのクラークス読解におけるイメージ論の転位
— 「風景」への眼差しをめぐって 宇和川 雄

口頭発表：文学3 (14:15 ~ 17:05) E会場 (103 講義室)

司会：公地 宗弘, 西村 千恵子

1. セルマ・ラーゲルレーヴ『モールバッカ』における「脚部障碍」の表象
— 優生学思想への関心を背景に 中丸 禎子
2. パウル・ツェラーン「死のフーガ」再読
— あらたな読みを模索するための予備作業 黒田 晴之
3. ウーヴェ・ヨーンゾン『記念の日々』Jahrestageにおける故郷について
— D.E.を例に 西尾 悠子
4. アンナ・ゼーガース『死者はいつまでも若い』の話法研究 神田 和恵

口頭発表：語学2 / 文化・社会3 (14:15 ~ 17:05) F会場 (104 講義室)

司会：阿部 美規, 西嶋 義憲

1. 民族性を脱したトルコ系移民のドイツ語
その認知過程における言語学者の役割をめぐって 田中 翔太
2. ドイツ在住トルコ系移民とドイツ人の言語使用
「謝罪」に関する社会言語学的研究 浜 由依
3. 過去の文字テキストの口語性はどのようにして測定可能か？
16世紀のドイツ語に基づいた方法論的考察 芹澤 円
4. Einstellungsforschung
— Neue Theorien, Methoden, Ergebnisse und Relevanz Matthias Grünwald

ブース発表（16:00～17:30） G会場（102 講義室）

携帯電話用ドイツ語学習ソフトウェア開発と授業における実践 川村 和宏

ドイツ語教育部会「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表
（14:15～17:35）H会場（106 講義室）

日本独文学会賞授賞式（17:35～18:05） D会場（101 講義室）

懇 親 会（18:10～20:00）

会場：金沢大学生協 南福利食堂フレポ
会費：3000 円（学生会員 2000 円）

第2日 10月16日(日)

シンポジウム VI (10:00 ~ 13:00) A会場(大講義室 A)

エーリヒ・ケストナーとその時代

Erich Kästner und seine Zeit

司会：寺井 紘子

1. 大都市における身体の表象
第一次世界大戦後のケストナー, グロス, ディックス 寺井 紘子
2. 映画『ほら男爵の冒険』とふたりの父親の統合 青地 伯水
3. 科学者と権力者 ケストナー『ほら男爵の冒険』とその周辺 児玉 麻美
4. 被追放者を描いた文学 — 「1945年の行進曲」.. 永畑 紗織

シンポジウム VII (10:00 ~ 13:00) B会場(AV 講義室)

動物とドイツ文学

Tiere in der deutschen Literatur

司会：松村 朋彦

1. 猿が言葉を話すとき — ホフマン, ハウフ, カフカ 松村 朋彦
2. 動物の認識能力とはなにか?
— 18世紀の動物に関する言説とホフマンの猫 土屋 京子
3. 人間のような犬と, 犬のような人間
— エープナー = エッセンバッハ, リルケ, カフカ 川島 隆
4. 「犠牲」にみる神と人間と動物 — トーマス・マンを中心に 千田 まや

シンポジウム VIII (10:00 ~ 13:00) C会場(レクチャーホール)

Grundwortschatz Deutsch:

lexikografische und fremdsprachendidaktische Perspektiven

司会：Saburo Okamura / Willi Lange

1. ドイツ語初級文法学習という視点からの「基本語彙」 在間 進

2. Lehrwerke und Referenzwortschätze:
Der Nutzen frequenzbasierter Grundwortschätze Noah Bubenhofer
3. Methoden der Bestimmung des Kernwortschatzes Deutsch Saburo Okamura
Willi Lange
Joachim Scharloth
4. 日独例文コーパス DJPD を利用した語彙学習 岩崎 克己
5. Der Grundwortschatz in wortschatzdidaktischer Perspektive Angelika Werner
甲藤 史郎

口頭発表：文学 4 / 文化・社会 4 (10:00 ~ 12:35) D 会場 (101 講義室)

司会：北村 純一，別本 明夫

1. 『パレオフロンとネオテルペ』
バロック的祝祭から見たゲーテの宮廷祝賀劇 橋本 由紀子
2. 胡椒，媚薬，バルサム・・・
中高ドイツ語叙事詩における香料 渡邊 徳明
3. ドイツにおける「ブッククラブ」の歴史と研究の観点 竹岡 健一
4. 複雑系としての文学 … ベキ則，乗算性，固有名：
ドイツ文芸出版データによる調査をもとに … 名執 基樹

口頭発表：語学 3 (10:00 ~ 11:55) E 会場 (103 講義室)

司会：黒田 廉，宮下 博幸

1. 状態受動と過去分詞形形容詞について 野間 砂理
2. 動詞の名詞化に関する日独対照
コミュニケーション動詞を例にとって … 納谷 昌宏
3. ドイツ語定冠詞の非指示的機能について
— 文法形式と意味のミスマッチ？ … 吉田 光演

口頭発表：文学 5（10:00～11:55） F 会場（104 講義室）

司会：宮内 伸子，山本 孝一

1. Mentalübersetzung
ハーマンとヘルダーにおける翻訳観の一断面 宮谷 尚実
2. 翻訳の生産力
ハイナー・ミュラーによるシェイクスピアの翻訳と改作 村瀬 民子
3. 言語実験と翻訳の可能性
— アルノ・シュミットの記号の用法を例に 犬飼 彩乃

ブース発表（11:30～13:00） G 会場（102 講義室）

ポッドキャストを利用したドイツ語学習 — プロジェクト報告 星井 牧子
野田 郁子
Ute Schmidt

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表
（10:00～13:00）H 会場（106 講義室）

閉会の挨拶（13:00-13:05） A 会場（大講義室 A）

竹内 義晴

研究発表会期間中，上記のプログラムに加えて，書店・出版社等による書籍展示が行われます。（書籍展示会場：ワークショップ 2）